

# 九州の東の玄関口としての拠点化戦略の概要

## 九州の東の玄関口としての人の流れ・物の流れの拠点化

九州は、アジアの成長や活力を取り込むアジアのゲートウェイとして、我が国の人の流れ・物の流れにおける役割が益々増大している

本県が九州の東の玄関口として人・物の流れの拠点となることで、九州さらには我が国の経済成長・アジアとの交流促進に大きく貢献

# 本県は人・物の流れの結節点：九州の中・長距離フェリーの8割が発着／H28.4東九州自動車道（北九州市－宮崎市）全線開通

# 環境変化：別府－大阪航路フェリーが大型化の見込み／H28.10定期RORO船航路（大在－清水）の就航／モータリフトの進展（トラック運転手の不足）

【将来像】多くの人・物が本県を介して九州内外を行き来する状況をつくることで、経済活性化・雇用創出を促進し、地方創生を加速

[人]交通・観光・物販飲食業の活性化→雇用創出 [物]国内物流の幹線経路→〈直接〉物流業の立地・雇用創出→〈間接〉農林水産業・製造業の競争力強化・立地

## ハブ・アンド・スポークの強化・充実 ーどのハブ、どのスポークを重点的に強化するかー

ハブ：人・物の流れが結節する拠点（港湾、フェリーターミナル、空港、バスターミナル、駅） スポーク：人・物が動く路線・ルート（フェリー航路、航空航路、長距離バス路線、鉄道、高速道路網）

### 人の流れの拠点化

#### フェリー航路の充実・強化

- ハブ○周辺のにぎわいづくり/市街地への旅客誘導（西大分・佐賀関・臼杵・佐伯）《短》  
○老朽化した上屋の改修・建替え（竹田津・別府・臼杵・佐伯）《中長》  
○地震・津波対策の推進（別府・西大分・臼杵・津久見）《中長》
- スポ○航路の維持・拡充に向けたフェリーの利用促進（各港）《短》  
○対岸県と連携した観光振興（佐賀関・臼杵・佐伯）《短》

#### 航空路線の充実・強化

- ハブ○空港ビル内のバリアフリー化、待合椅子不足解消等による魅力向上《短》  
○国際線の充実等を踏まえたエプロン拡張や搭乗橋の増設《中長》  
○国際線の利用増加を踏まえたチェックイン施設等の整備《中長》
- スポ○定期チャーターである台中線の定期便化《短》  
○増便・航空機の大型化に向けた航空会社への働きかけ《短》  
○大分空港へのアクセス手段の充実に向けた検討《中長》

#### 長距離バス路線の充実・強化

- ハブ○要町の交通結節機能施設の路線バス乗入等による利便性向上《短》  
○交通結節機能施設のバスターミナル化や施設整備の検討《中長》
- スポ○交通結節機能施設の長距離バス路線充実・起終点化《短》  
○既存路線の維持・拡充のための利用促進《短》  
○四国へのフェリーを活用した新規路線の検討《中長》

#### 鉄道路線の充実・強化

- ハブ○利用者数3千人以上駅のバリアフリー化（高城・鶴崎・大在・別府大学）《短》  
○ICカード利用可能駅の増加／観光拠点駅の多言語表示化《短》
- スポ○日豊本線の複線・高速化による輸送能力の維持・増強《中長》

#### 二次交通の充実

- ハブ○乗継情報提供の充実/タクシー・レンタカーの利用環境向上《短》  
○関係交通事業者による乗継ぎ調整会議の設置《短》

#### 別府港の基幹拠点化

- フェリーターミナル港としての機能強化  
・両航路の利用促進／港内の案内看板の充実《短》  
・大阪港航路の船の大型化に伴う港湾整備《中長》  
・フェリー上屋の集約整備による効率性・利便性の向上《中長》
- 九州の海の玄関口としてふさわしい空間整備  
・フェリー上屋の整備に合わせた、にぎわいの核となる施設の整備《中長》
- 海路と陸路の結節となる二次交通の充実  
・フェリー上屋整備時に分かりやすいようバス・タクシー乗場を集約整備《中長》
- クルーズ船の誘致方針  
・高級小型船・中型船の積極的な誘致/受入れ体制の強化《短》
- フェリー上屋及びにぎわい空間の整備に向けたイメージ・デザインづくり  
・別府港のイメージ/フェリー上屋・にぎわい空間のデザイン/機能《短》

## 物の流れの拠点化

○内航貨物の増加等により本県に国内物流の幹線経路ができることを目指す(外貿コンテナは取扱量増による輸送コスト削減で港の競争力を強化)

### 海上貨物航路の機能強化・利用促進

- スポ ○新規航路の誘致/既存航路の便数の充実(各港)《短》
- RORO船航路・フェリー航路の利用促進(各港)《短》

### 内航貨物の集荷推進

- スポ ○内航航路の取扱貨物量増加に向けた貨物集荷(各港)《短》
- エリアや貨物種類を絞った効果的なセールスの実施(各港)《短》
- 農水産物等の輸送環境強化に向けたコールドチェーンの構築《中長》

### 港湾利用企業の誘致・集積

- ハブ ○貨物量の安定確保のための港の近傍地への物流産業、製造業等の港利用企業の誘致・集積(中津・大在・佐伯)《短》
- 更なる企業集積に向けて、地元市と協働し、港の近傍への工業用地確保や工業団地の整備を検討(中津・佐伯)《中長》

### ポートセールスの推進 —「貨物の集荷」「内航航路の充実」「港湾利用企業の集積」の正のスパイラルへ—

- スポ ○内航貨物に関する官民連携したポートセールス組織を港毎に設立/県組織の充実・職員の専門性向上(各港)《短》
- 個別の荷主・輸送事業者に対し、各港を利用することの合理性(時間・費用・利便性・コンプライアンス)を訴求(各港)《短》
- トラックドライバーの運転時間に関する荷主の責務の周知/省エネ法の特定事業者へのセールス/3PL事業者との連携(各港)《短》
- 物流事業者や製造業等の企業に対し、港近辺への物流施設や工場の立地に向けたメリットを周知(各港)《短》

## 交通インフラの整備

### 高規格幹線道路等の充実・強化

- スポ ○港までの市道の道路案内標識設置協議(竹田津・西大分・臼杵)《短》
- 中九州横断道路、中津日田道路の整備《中長》
- 東九州自動車道、大分空港道路の4車線化の促進《中長》
- 港のアクセス道路の改良(竹田津・佐賀関・臼杵・津久見)《中長》

### 港の機能強化

- ハブ ○老朽化した上屋の改修・建替え(竹田津・別府・臼杵・佐伯)《中長》
- フェリー上屋について可能な限りバリアフリー化を推進《中長》
- 駐車場の拡張が必要になった港への対応の検討《中長》
- 地震・津波対策の推進(別府・西大分・臼杵・津久見)《中長》

## 将来の大分県を支える交通体系の構築

○東九州新幹線の整備計画路線格上げのための取組の推進/太平洋新国土軸構想の取組の継続

### 戦略期間

平成28年度～平成36年度(9年間) ※長期総合計画の計画期間と同じ

### 戦略のフォローアップ

- 関係者がそれぞれの役割を踏まえながら連携し、取組を着実に実施
- 数値目標の設定やフォローアップ委員会の実施による進捗管理
- 適宜・適切に戦略を見直し

